

2014年3月期 第3四半期決算説明資料

2014年2月4日

株式会社 IHI



2014年3月期 第3四半期連結決算の概要

(億円)

	'12年度3Q	'13年度3Q	増 減
受 注 高	8,242	9,121	879
売 上 高	8,681	8,715	33
営 業 利 益	244	341	96
経 常 利 益	242	452	210
税金等調整前 四半期純利益	341	527	186
四 半 期 純 利 益	179	313	133

特段の記載がない限り、各項目の数値は億円未満を切り捨てて表示しております。

営業外損益及び特別損益

(億円)

	'12年度3Q	'13年度3Q	増 減
金融収支	▲ 14	▲ 11	2
持分法による投資損益	9	93	84
為替差損益	27	65	38
その他	▲ 24	▲ 35	▲ 11
営業外損益	▲ 2	111	114
特別損益	98	74	▲ 23

'13年度3Qの特別損益(74億円)の主な内訳

事業分離における移転利益 75億円
減損損失 ▲0.2億円

報告セグメント別 受注高

(億円)

	'12年度3Q	'13年度3Q	増 減
資源・エネルギー・環境	2,079	3,025	946
社会基盤・海洋	664	1,202	537
産業システム・汎用機械	2,614	2,700	86
航空・宇宙・防衛	1,766	2,132	365
報告セグメント計	7,125	9,061	1,936
その他	454	424	▲ 30
(船舶・海洋)	1,161	-	▲ 1,161
調整額	▲ 500	▲ 365	134
合計	8,242	9,121	879

'12年度3Qの数値は、新報告セグメントに組替えて表示しております。

報告セグメント別 売上高・営業利益

(億円)

	売上高			営業利益		
	'12年度3Q	'13年度3Q	増減	'12年度3Q	'13年度3Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,064	2,254	189	74	78	3
社会基盤・海洋	749	951	202	▲ 2	▲ 6	▲ 4
産業システム・汎用機械	2,736	2,762	25	84	108	24
航空・宇宙・防衛	2,219	2,708	489	97	270	172
報告セグメント計	7,769	8,677	907	254	450	196
その他	362	364	2	2	▲ 2	▲ 4
(船舶・海洋)	1,173	-	▲ 1,173	65	-	▲ 65
調整額	▲ 623	▲ 326	297	▲ 77	▲ 107	▲ 30
合計	8,681	8,715	33	244	341	96

'12年度3Qの数値は、新報告セグメントに組替えて表示しております。

営業利益の前年同期比増減要因(報告セグメント別)

(億円)

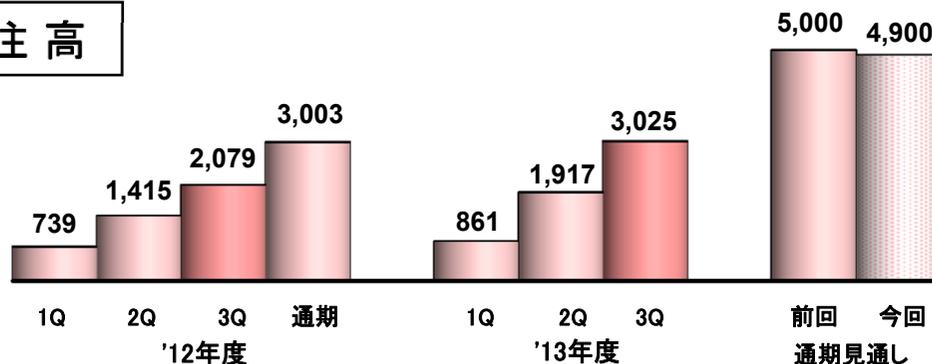
	売上高の 増 減	工事採算 の変動	為替の 変 動	販管費の 変 動	合 計
資源・エネルギー・ 環境	6	▲ 10	39	▲ 32	3
社会基盤・海洋	22	▲ 24		▲ 2	▲ 4
産業システム・ 汎用機械	37	61	10	▲ 84	24
航空・宇宙・防衛	23	60	92	▲ 3	172
報告セグメント計	88	87	141	▲ 121	196
そ の 他		▲ 4			▲ 4
(船舶・海洋)	▲ 113			48	▲ 65
調 整 額		▲ 16		▲ 14	▲ 30
合 計	▲ 25	67	141	▲ 87	96

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

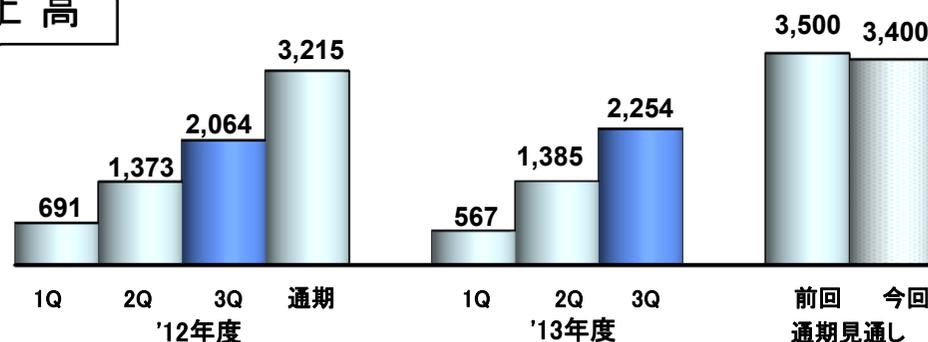
(億円/各期の金額は累計)
前回: 2013年11月1日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, ガスプロセス, 医薬, 原子力,
環境対応システム, 船用大型原動機

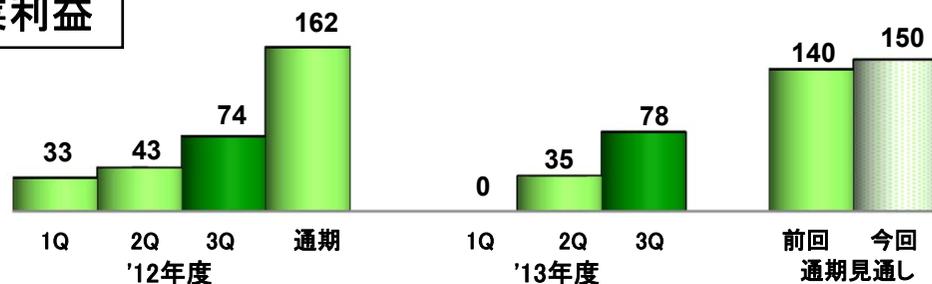
受注高



売上高



営業利益



'12年度の数値は、新報告セグメントに組替えて表示しております。

<対前第3四半期 増減内訳>

【受注高】

ガスプロセスの増加により、前年同期比45.5%増の3,025億円となりました。

【売上高】

原子力が減収となったものの、原動機プラント、陸船用原動機、ボイラ、ガスプロセスの増収により、前年同期比9.2%増の2,254億円となりました。

【営業利益】

原子力が減益となったものの、円高修正による増収等により増益となり、前年同期比4.8%増の78億円となりました。

<通期見通し 対前回 増減内訳>

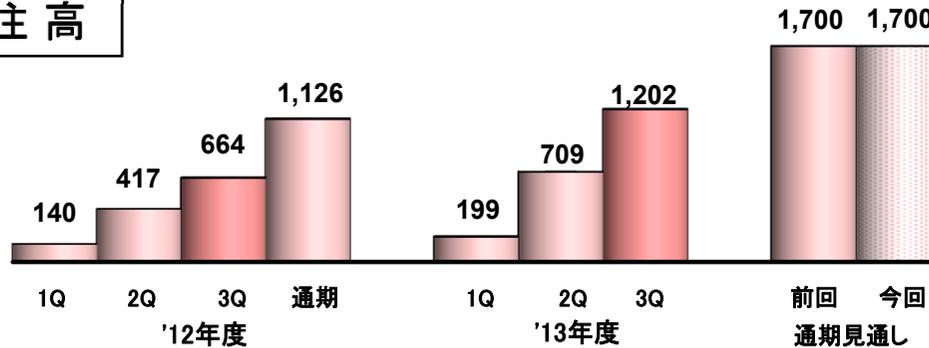
受注高は、受注遅れ等の懸念を考慮し、▲100億円減少の4,900億円を見通しております。
売上高は、売上計上時期の遅れの影響等により、▲100億円の減収、営業利益は、円高修正の影響を反映し、+10億円の増益としました。

社会基盤・海洋

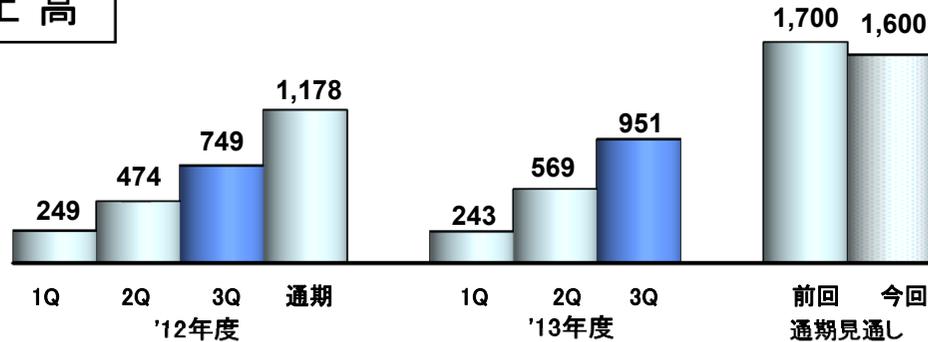
(億円/各期の金額は累計)
前回: 2013年11月1日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁, 水門, シールド掘進機, 交通システム, 都市開発,
フローティングLNG貯蔵設備, 海洋構造物

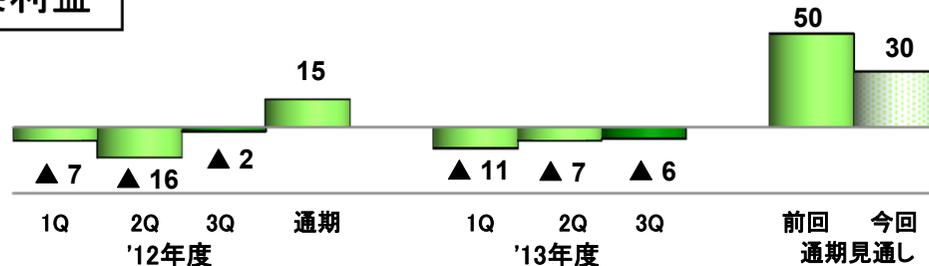
受注高



売上高



営業利益



'12年度の数値は、新報告セグメントに組替えて表示しております。

<対前第3四半期 増減内訳>

【受注高】

海洋構造物, 橋梁の増加により, 前年同期比80.9%増の1,202億円となりました。

【売上高】

海洋構造物が減収となったものの, 橋梁の増収により, 前年同期比27.0%増の951億円となりました。

【営業利益】

国内橋梁で高難度工事が増加したことにより, 前年同期(2億円の赤字)と比べ4億円悪化しました。

<通期見直し 対前回 増減内訳>

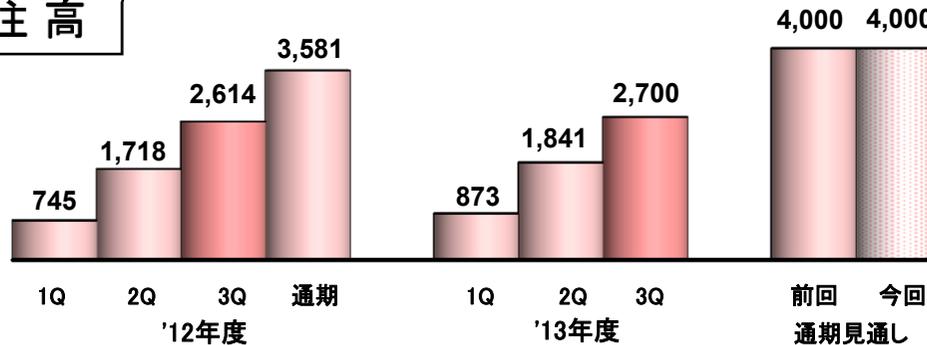
売上計上時期の遅れの影響等により, 売上高は▲100億円の減収, 営業利益は▲20億円の減益としました。
受注高は変更ありません。

産業システム・汎用機械

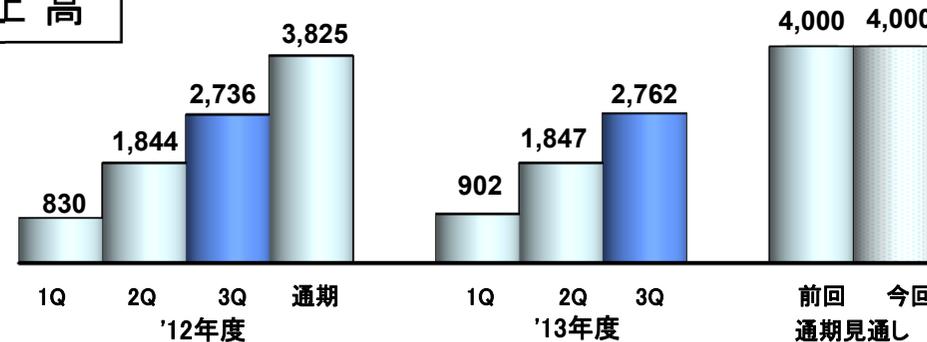
(億円/各期の金額は累計)
前回: 2013年11月1日公表の業績予想数値

主要事業: 船用機械, 物流システム, 運搬機械, パーキング, 製鉄機械, 産業機械, 熱・表面処理, 製紙機械, 車両過給機, 圧縮機, 分離装置, 船用過給機, 建機, 農機, 小型原動機

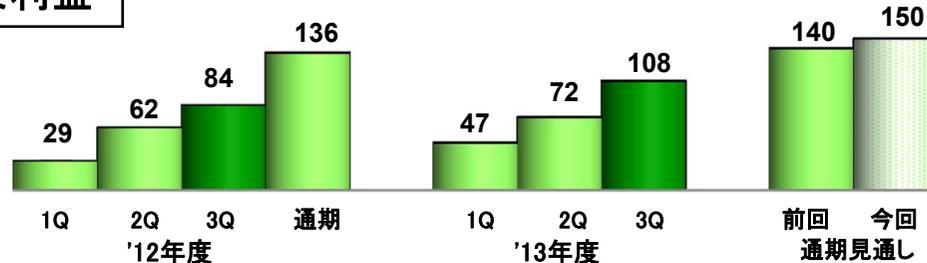
受注高



売上高



営業利益



<対前第3四半期 増減内訳>

【受注高】

製紙機械, 運搬機械の減少はあったものの, 車両過給機, 熱・表面処理の増加により, 前年同期比3.3%増の2,700億円となりました。

【売上高】

製鉄機械, 物流システムが減収となったものの, 車両過給機, 熱・表面処理の増収により, 前年同期比0.9%増の2,762億円となりました。

【営業利益】

上述の増収等により前年同期比28.7%増の108億円となりました。

<通期見通し 対前回 増減内訳>

車両過給機, 建機の採算改善を反映し, 営業利益は+10億円の増益としました。受注高, 売上高は変更ありません。

'12年度の数値は, 新報告セグメントに組替えて表示しております。

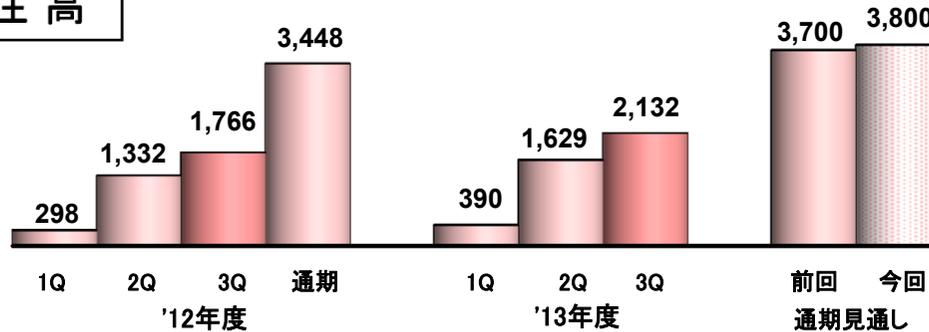
航空・宇宙・防衛

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

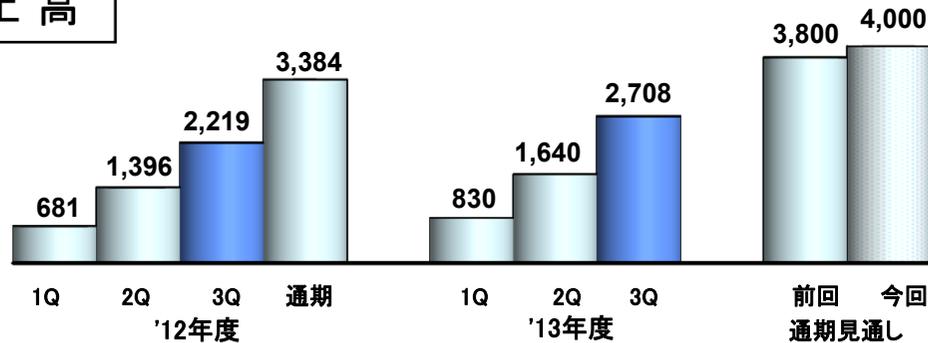
(億円/各期の金額は累計)

前回: 2013年11月1日公表の業績予想数値

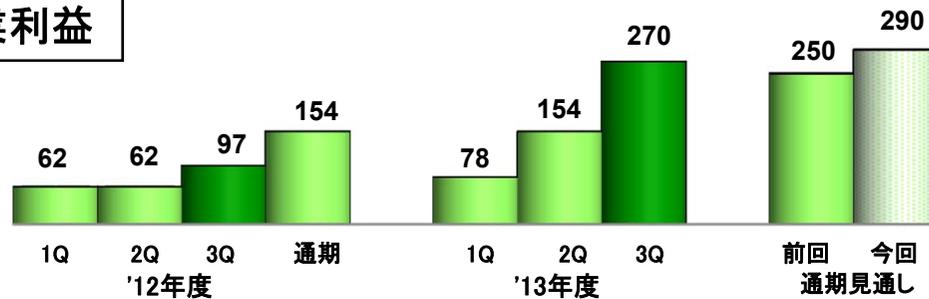
受注高



売上高



営業利益



'12年度の数値は、新報告セグメントに組替えて表示しております。

<対前第3四半期 増減内訳>

【受注高】

航空エンジンの増加により、前年同期比20.7%増の2,132億円となりました。

【売上高】

円高修正等による民間向け航空エンジンの増収により、前年同期比22.1%増の2,708億円となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数> (台)

販売年度	販売台数
'12年度3Q	842
'13年度3Q	857

【営業利益】

航空エンジンの増収とコスト改善等により、前年同期比176.6%増の270億円となりました。

<通期見直し 対前回 増減内訳>

受注高は、民間向け航空エンジンの増加を見込み、+100億円の3,800億円を見通しております。

売上高は、円高修正等により+200億円の増収、営業利益は、増収の影響とコスト改善の実績等を反映し、+40億円の増益としました。

貸借対照表

(億円)

	'12年度末	'13年度3Q末	増 減
資産合計	13,642	14,903	1,261
負債合計	10,649	11,512	862
(うち 有利子負債残高)	(3,538)	(4,179)	(641)
純資産合計	2,992	3,391	398
株主資本	2,827	3,076	248
その他の包括利益累計額	56	156	99
少数株主持分等	108	159	50
D/Eレシオ	1.18倍	1.23倍	0.05悪化

有利子負債残高には、リース債務残高（'12年度末：181億円、'13年度3Q末：176億円）を含んでおります。

(1) 海外売上高 (億円)

	'12年度3Q	'13年度3Q
アジア	1,279	1,605
北米	1,041	1,508
中南米	499	135
欧州	622	1,119
その他	145	84
合計	3,588	4,453
海外売上高比率	41.3%	51.1%

(2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費 (億円)

	'12年度3Q	'13年度3Q
研究開発費	197	219
設備投資額	364	330
減価償却費	312	291

2014年3月期 通期連結業績見通し

前提為替レート 米ドル 100円
(第4四半期) ユーロ 135円

(億円)

	前回見通し ('13年度通期) A	今回見通し ('13年度通期) B	前期実績 ('12年度通期)	増 減 B-A
受 注 高	14,400	14,400	12,256	0
売 上 高	13,100	13,100	12,560	0
営 業 利 益	500	530	421	30
経 常 利 益	390	470	362	80
当 期 純 利 益	240	270	333	30

前回見通しは、2013年11月1日公表の業績予想数値です。

報告セグメント別 連結業績見通し(受注高)

(億円)

	前回見通し	今回見通し	対前回見通し 増減
資源・エネルギー・ 環境	5,000	4,900	▲ 100
社会基盤・海洋	1,700	1,700	0
産業システム・ 汎用機械	4,000	4,000	0
航空・宇宙・防衛	3,700	3,800	100
報告セグメント計	14,400	14,400	0
その他	600	600	0
調整額	▲ 600	▲ 600	0
合計	14,400	14,400	0

前回見通しは、2013年11月1日公表の業績予想数値です。

報告セグメント別 連結業績見通し(売上高・営業利益)

(億円)

	前回見通し		今回見通し		対前回見通し 増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・ 環境	3,500	140	3,400	150	▲ 100	10
社会基盤・海洋	1,700	50	1,600	30	▲ 100	▲ 20
産業システム・ 汎用機械	4,000	140	4,000	150	0	10
航空・宇宙・防衛	3,800	250	4,000	290	200	40
報告セグメント計	13,000	580	13,000	620	0	40
その他	600	10	600	10	0	0
調整額	▲ 500	▲ 90	▲ 500	▲ 100	0	▲ 10
合計	13,100	500	13,100	530	0	30

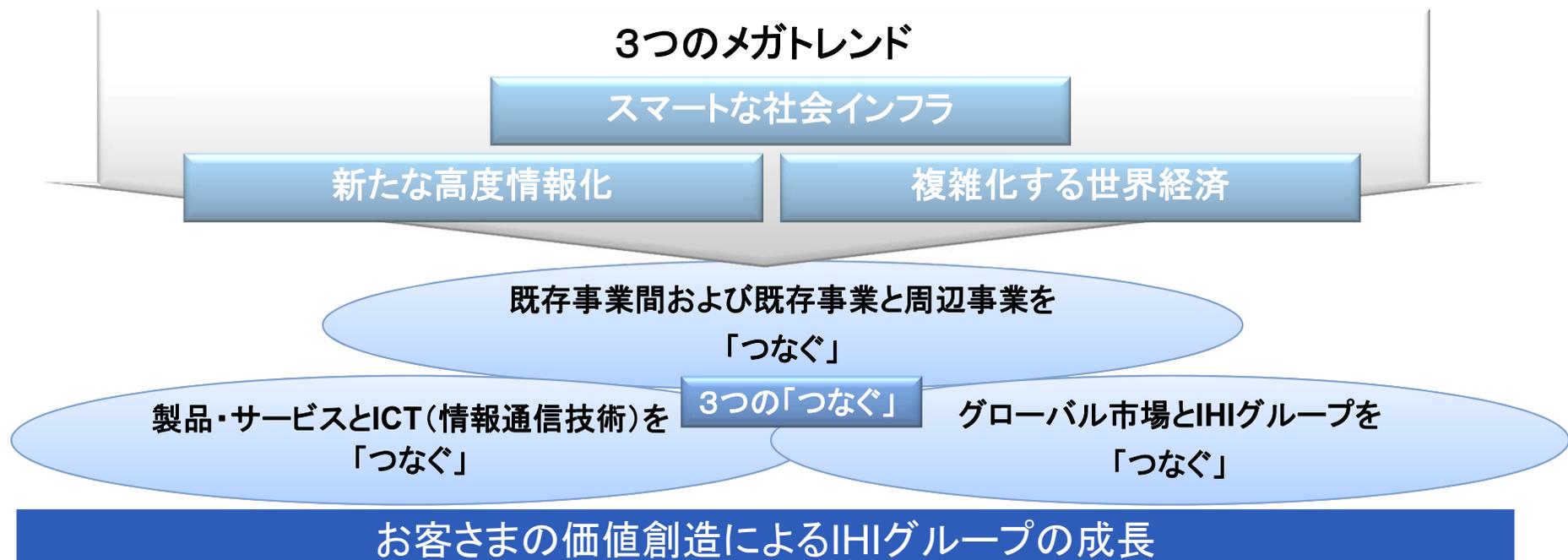
前回見通しは、2013年11月1日公表の業績予想数値です。

参考資料

■ 「グループ経営方針2013」の位置づけ



■ 「グループ経営方針2013」における経営環境と成長への道筋



■ 「グループ経営方針2013」 経営目標

経営目標	目標数値	目標達成時期
連結売上高	14,000億円	('15年度)
連結営業利益	700億円	
投資総額	4,000億円	('13~15年度)
D/Eレシオ	1.2倍以下	('15年度末)
ROIC	6.50%	

(参考)連結売上高, 連結営業利益の目標数値は, 為替レート的前提を80円/\$としたものです。

■「グループ経営方針2013」 進捗状況

資源・エネルギー・環境

インドのPetronet LNG社(Petronet LNG Ltd.)から同社のダヘッジLNG受入基地(グジャラート州)向けLNG貯蔵タンク建設工事を受注しました。今回の工事は、2004年に当社グループが納入したLNG受入基地の拡張工事で、17万キロリットルのLNG貯蔵タンク2基の設計・調達・建設工事を担当し、2016年の完成を予定しています。なお、このたびの受注により、インドにおける当社グループのLNG貯蔵タンクのシェアは約7割を占めることとなります。近年、インドのみならず、世界的に天然ガス(LNG)の需要が高まっているなか、多数のLNG受入タンク・ターミナルの建設実績を有する当社グループは、今後も国内はもちろんのこと、需要が拡大する海外向けLNG受入タンク・ターミナルの受注活動を展開していきます。



当社が2012年Petronet LNG社に納入したコチLNG受入基地向けLNG貯蔵タンク

社会基盤・海洋

橋梁事業において、当社グループの(株)IHIインフラシステム(以下IIS)が、トルコの有力ゼネコンであるMAKYOL社とのJVで、トルコ共和国運輸省道路庁より「第1・第2ボスポラス橋補修工事」を受注しました。この両橋は、1日計40万台強の自動車が行き来する、イスタンブールのヨーロッパ側とアジア側を結ぶ主要幹線であり、IISは世界的にも注目される大規模な吊橋補修工事を担当します。当社グループはトルコにおいて多数の橋梁工事の実績を有しており、現在建設中のイズミット湾横断橋とあわせ、トルコの道路交通インフラ整備に貢献していきます。



第2ボスポラス橋

■「グループ経営方針2013」 進捗状況

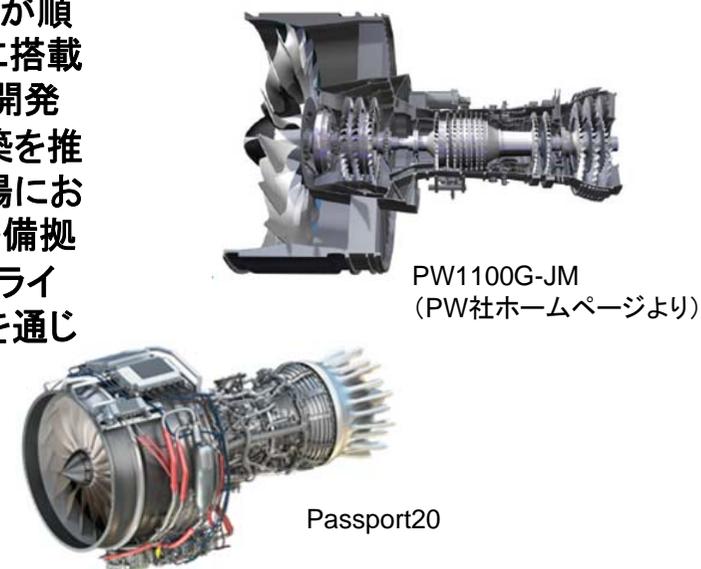
産業システム・汎用機械

熱・表面処理事業において、急増する自動車用部品向けのお客さまを中心としたグローバル展開を推進しています。当社グループは、2012年12月に、金属や非金属の表面処理加工を手掛けるスイスのイオンボンド社の全株式を取得し、従来の表面処理装置に加えて、表面処理加工を受託する体制を構築しています。また、2013年6月には熱処理受託加工の拠点をベトナムに開設し、7月には熱処理装置の製造拠点をタイ現地法人内に立ち上げるなど、お客さまのグローバルなニーズに対応していきます。



航空・宇宙・防衛

世界的な航空需要の増加や円高修正を背景に、航空エンジン事業が順調に推移しています。新型エンジンについては、エアバスA320neoに搭載されるPW1100G-JM、ビジネスジェットに搭載されるPassport20の開発を遂行し、着実な型式承認の取得を目指すとともに、量産体制の構築を推進しています。また、高い収益性が見込まれるアフターマーケット市場における交換部品の売上高も伸びており、2013年7月には米国に海外整備拠点を稼働させるなど、着実に取組みを進めています。引き続き、製品ラインアップの拡充やメンテナンス体制の強化による収益性の向上などを通じて、一層の事業拡大を図っていきます。



■「グループ経営方針2013」 進捗状況

その他

第1四半期連結会計期間に出資を決定したブラジルのEstaleiro Atlântico Sul S.A.(アトランチコスル社)については、2013年8月の出資参画後、経営及び技術指導の人員派遣を行ない、12月にタンカーの引き渡しを完了するなど着実に成果をあげています。今後も引き続き、同社の保有する設備やネットワークを生かして、ブラジルの海洋資源開発設備・構造物分野に積極的に取り組んでいきます。



アトランチコスル社

IHI

Realize your dreams

ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみにより投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。